

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-152	24-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Clinical profiles of people enrolling in alcohol and other drug treatment in Australia: Do youth differ from young adults and adults? オーストラリアにおけるアルコール・その他の薬物治療登録者の臨床プロファイル：青少年は若年成人や成人とは異なるのか？			
<b>執筆者</b>			
Campbell G, Pocuca N, Newland G, Ellem R, Glasgow S, Dignan J, Stokes H, Hides L.			
<b>掲載誌</b>			
Drug Alcohol Rev. 2024 Nov;43(7):2010-2020. doi: 10.1111/dar.13925.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
併存、メンタルヘルス、薬物使用障害、薬物使用治療、青少年			39159068
<b>要旨</b>			
<p><b>目的：</b>アルコールおよび他の薬物（AOD）使用障害は、薬物使用、精神健康、社会的要因が複雑に絡み合う多面的な問題であり、年齢層によってその影響が異なる可能性がある。本研究はアルコールおよびAOD治療を受ける人々の年齢層ごとの特徴を比較することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>本研究は横断研究であり、オーストラリアのクイーンズランド州およびニューサウスウェールズ州で活動する大規模非政府組織（NGO）「Lives Lived Well」が提供するAOD治療サービスの登録者データを用いた。対象者は2020.11～2022.10にサービスを利用した9413名であり、日常的なアウトカム測定およびAODの最小データセットを使用して収集されたベースラインデータを解析した。年齢は、24歳以下の青少年層、25～35歳の若年成人層、35歳以上の成人層の3区分に分類した。年齢群を独立変数、社会人口学的要因、薬物使用、精神症状、社会的要因、リスク行動を従属変数とする未調整二変量ロジスティック回帰を行った。</p> <p><b>結果：</b>青少年層が2066名（21.9%）、若年成人層が3052名（32.4%）、成人層が4295名（45.6%）であった。主要な薬物問題は、青少年層では大麻、若年成人層ではメタンフェタミン、成人層ではアルコールが最も多かった。全体の61.3%が中等度から重度の抑うつ症状を、55.0%が中等度から重度の不安症状を訴えていた。またPTSDスクリーニングでは、47.2%（95%信頼区間：46.2-48.2）が陽性を示し、最近の自殺念慮は40.4%（95%信頼区間：39.4-41.4）であった。精神症状は青少年層で特に併存が高頻度であった。</p> <p><b>結論：</b>精神症状の併存は高頻度であり、特に青少年層で顕著であった。各年齢層はそれぞれ独自の社会人口学および臨床的特徴を持っており、これらを考慮することで、より適切で効果的な治療が可能になると考えられる。</p>			